

東山健吾教授 履歴・業績

略 歴

1931年7月18日生まれ

1953年8月 東京芸術大学美術学部芸術学科4年中退、中国・北京へ留学

1954年8月 北京・中央美術学院美術研究所研究生課程修了

1954年9月 北京・中央美術学院美術研究所実習研究員

1956年9月 北京・中央美術学院美術研究所助理研究員

1957年2月 北京・中央美術学院美術史美術理論系兼任講師

1964年9月 北京・中央美術学院美術研究所研究員

1973年8月 中央美術学院在職のまま帰国

1975年4月 東海大学文学部文明学科非常勤講師

1976年4月 成城大学文芸学部非常勤講師

1977年4月 中央美術学院退職

1977年4月 成城大学文芸学部教授

ほかに、1980年より聖心女子大学、跡見女子大学、慶應義塾大学、東北大学、早稲田大学、筑波大学、九州大学、日本女子大学非常勤講師を歴任。また、中国・北京大学考古学系客員教授、國立臺灣大學藝術史研究所（大学院）非常勤講師を勤めた。

2002年3月 成城大学文芸学部教授定年退職

2002年4月 成城大学名誉教授

研究活動

1 概 要

(1) 研究領域：美術史

(2) 主要研究テーマ：前2世紀から9世紀における南アジア・中央アジア・東アジアの仏教美術

特に中国西北地区の仏教石窟寺院とその造形美術

(3) 研究の経緯：

1957年より中国の石窟の現地調査を進め、特に雲岡石窟、龍門石窟、麦積山石窟、炳靈寺石窟、敦煌莫高窟等の予備調査を行った。

1961年より1964年まで甘粛省麦積山石窟を重点的に調査し、中央美術学院美術研究所において調査資料（実測図・文字記録・写真記録）を作成した。また、麦積山石窟との関係を比較研究するため、甘粛省慶陽北石窟寺における中国最初の学術調査を行った。（論文(1)、(3)、(4)参照）

麦積山石窟の正式な調査報告を作成中の1966年に至り、毛沢東が発動した「文化大革命」運動によってリベラルな学術思想と宗教が否定され、紅衛兵の暴挙により調査資料の大部分が失われた。（調査成果の一部は論文(10)、(12)参照）

帰国後「文化大革命」運動の鎮静を待って、1977年より敦煌莫高窟の調査を再開、その研究成果は一連の論文（論文(5)、(6)、(7)、(8)、(9)参照）や『中国石窟』、『敦煌石窟』等（著者(3)、共著・編著(7)、(11)、(13)、(15)、(17)、(20)参照）に纏めた。

現在の主要なテーマは、中国初期仏教美術の表現形式に関する、外来形式の受容と漢代以来の伝統形式についての研究である。（論文(8)、(9)、口頭発表(2)参照）

2 著作

・主要論文

- (1) 「慶陽寺溝石窟“佛洞”紹介」『文物』1963-7
- (2) 「日本唐招提寺的建築和造像藝術」『文物』1963-9
- (3) 「The Cave Temples of Ching Yang」〈EASTERN HORIZONE〉
IV-6, June 1965
- (4) 「慶陽寺溝石窟について」『成城文芸』83、1978-9
- (5) 「敦煌の仏教美術を支えたもの」『東洋学術研究』18巻2号1979

- (6) 「敦煌莫高窟第220窟試論」『佛教藝術』133号1980年
- (7) 「敦煌莫高窟彩塑の展開」『敦煌莫高窟 三』平凡社
- (8) 「敦煌莫高窟第130窟大仏」『国華』1050号1982年
- (9) 「敦煌莫高窟北朝尊像の図像的考察」『東洋学術研究』24巻1号1985年
- (10) 「麦積山石窟の研究と初期石窟に関する二・三の問題」『麦積山石窟』1987年
- (11) 「欧米・日本へ流出した龍門石窟の石刻尊像」『龍門石窟 二』1988年
- (12) 「敦煌莫高窟における仏樹下説法図形式の受容とその展開」『成城大学文芸学部創立35周年記念論文集』1989年
- (13) 「麦積山石窟の草創と仏像の流れ」『中国麦積山石窟展』1992年

・著 書

- (1) 『光琳』北京・人民美術出版社 1958年
- (2) 『東鹿県農民画』北京・人民美術出版社 1958年
- (3) 『敦煌行』潮出版 1987年
- (4) 『敦煌三大石窟』講談社選書メチエ 1996年

・共書・編書

- (1) 『日本浮世絵』（共著）北京・人民美術出版社 1961年
- (2) 『古代史のなかの寺と仏』（共著）毎日新聞 1976年
- (3) 『中国の美術と考古1』（共著）六興出版 1977年
- (4) 『デラックス・ギャラリー・中国の美術』（共著）旺文社 1977年
- (5) 『敦煌への道』（共著）日本放送出版協会 1978年
- (6) 『敦煌の美百選1』（共著）日本経済新聞社 1978年
- (9) 『世界考古学辞典』（編著）平凡社1979年
- (8) 『敦煌の美術』（共著）大日本絵画 1979年
- (9) 『雲岡石窟の旅』（共著）日本放送出版協会 1979年
- (9) 『週刊朝日百科・世界の美術』（共著）朝日新聞社 1979年
- (10) 『世界の文化史蹟・中国の石窟寺』（共著）講談社 1980年
- (11) 放送大学教材『美術史と美術理論』（共著）日本放送出版協会 1982年

- (12) 『敦煌石窟』(共著) 平凡社 1982年
- (13) 『エクラン・世界の美術』(共著) 主婦の友社 1982年
- (14) 『シルクロードと仏教文化』(共著) 東洋哲学研究所 1979年
- (15) 『改訂東洋美術全史』(共著) 東京美術 1981年
- (16) 『アジアの仏教名蹟』(共著) 雄山閣出版 1988年
- (17) 『敦煌ものがたり』(共著) 新潮社 1989年
- (18) 『中国石窟』全17巻(編著) 平凡社 1980~1990年
- (19) 『敦煌への道』改訂版(共著) 日本放送出版協会 1995年

・ 訳 書

- (1) 『中国文化大革命期間出土文物』北京・外文出版社 1973年
- (2) 『中国工芸美術』北京・外文出版社 1974年
- (3) 『長沙馬王堆一号漢墓』(共訳) 平凡社 1976年
- (4) 『美しき敦煌』段文傑著 潮出版社 1986年

3 主要発表

- (1) 「1988年10月ユネスコ主催国際学術会議：人文科学におけるシルクロードの意義」における発表「Buddhist Triad Icon in Gandhara Its Spread Eastward and transformation (<Senri Ethnological Studies> No. 32. National Museum of Ethnology 1992年)
- (2) 「1990年敦煌学国際シンポジウム」中国敦煌研究院における発表「敦煌本生故事の表題形式一以睽子本生故事画為例」(『敦煌研究』特刊総第27号1991年)
- (3) 「1997年第5回敦煌石窟国際シンポジウム」中国敦煌研究院における発表「敦煌における本生説話図の形式」
- (4) 「2000年敦煌学国際学術シンポジウム」中国敦煌研究院における発表「敦煌莫高窟等249窟窟頂を支配する帝釈天」

4 学会及び社会における活動

美術史学会会員；美学会会員；国際敦煌学会会員

日中人文社会科学交流協会常任理事 1996年—2000年

国際龍門石窟研究保護学会会長 2000年—

國立臺灣大學藝術史研究所評鑑委員會委員 2000年度

全国伝統的工芸品産業振興協会審査委員 2000年—

河西回廊沙漠緑化植林協会理事長 2002年—